

郡山市歴史情報博物館

福島県郡山市
設計・監理／久米設計
施工／佐藤工業・八光建設特定建設工事共同企業体



上／鉄・コンクリート・木材によるシンプルな施設ボリュームと大きな軒庇による奥行ある表情
下／交流スペースの活動が文化通りに現れる。左奥は郡山公会堂



歴史を軸に、地域・ひと・未来をつなぐ

本施設は郡山市の歴史・文化遺産を収集・展示し、調査研究や情報提供を行う博物館機能に加え、歴史資料として重要な公文書等を収集・保存し、その効率的な利用を図るための公文書館機能を複合することで、豊かな地域史像を発信するための拠点施設として整備された。

計画地は市制施行を記念して建てられた「郡山公会堂」や安積疏水の終着点の一つである「麓山の飛瀑」等の市の発展を物語る歴史・文化遺産に囲まれ、中央図書館や中央公民館等の文化施設が集積する地区に位置する。南北に高低差のある敷地特性を利用し、西

側の桜並木が続く歩道と南側の文化通りの歩道レベルに合わせて「交流エリア」、中央部分に「展示エリア」を配置した。「収蔵エリア」、「研究エリア」はバック動線となる敷地北東部の道路レベルに合わせて計画した。

交流エリアは自然なかたちで人の流れを施設内部へと引き込み・通り抜けすることができる地形に合わせたスロープ構造によるプロムナードと、オープンスペースを軸に形成している。プロムナードに付随して、交通と交流のギャラリー、地域ギャラリー、オープンスペース等の賑わい施設を配置し、幅広い世代が日常的に歴史に触れ、気軽に利用できる空間を散りばめた。常設展示・企画展示エ

リアへの興味を高め、閉じられた空間へと誘い込む構成となっている。

展示エリアは交流エリアよりも1.2m高いフロアレベルとし、開放的な交流ゾーンから厳かな雰囲気を持つ展示エリアへの雰囲気の切替えを図った。

歴史や文化を通して多世代への学びを提供する場とするとともに、麓山地区の歴史・文化遺産や文化施設、さらにはこおりやま広域圏への回遊性を高める場にもなることを目指した。

歴史を集積・発信するハコとして、交流エリアと展示エリアそれぞれのシンプルなボリュームと、それらをつなぐ大きな軒庇がつくる陰影によって、施設にふさわしい品格をつくるとともに、環境性能の向上を図った。

内外装は極力種類を限定し、コンクリート、鉄、木材によるプレーンな素材の組み合わせとし、展示物や市民活動の背景となっている。

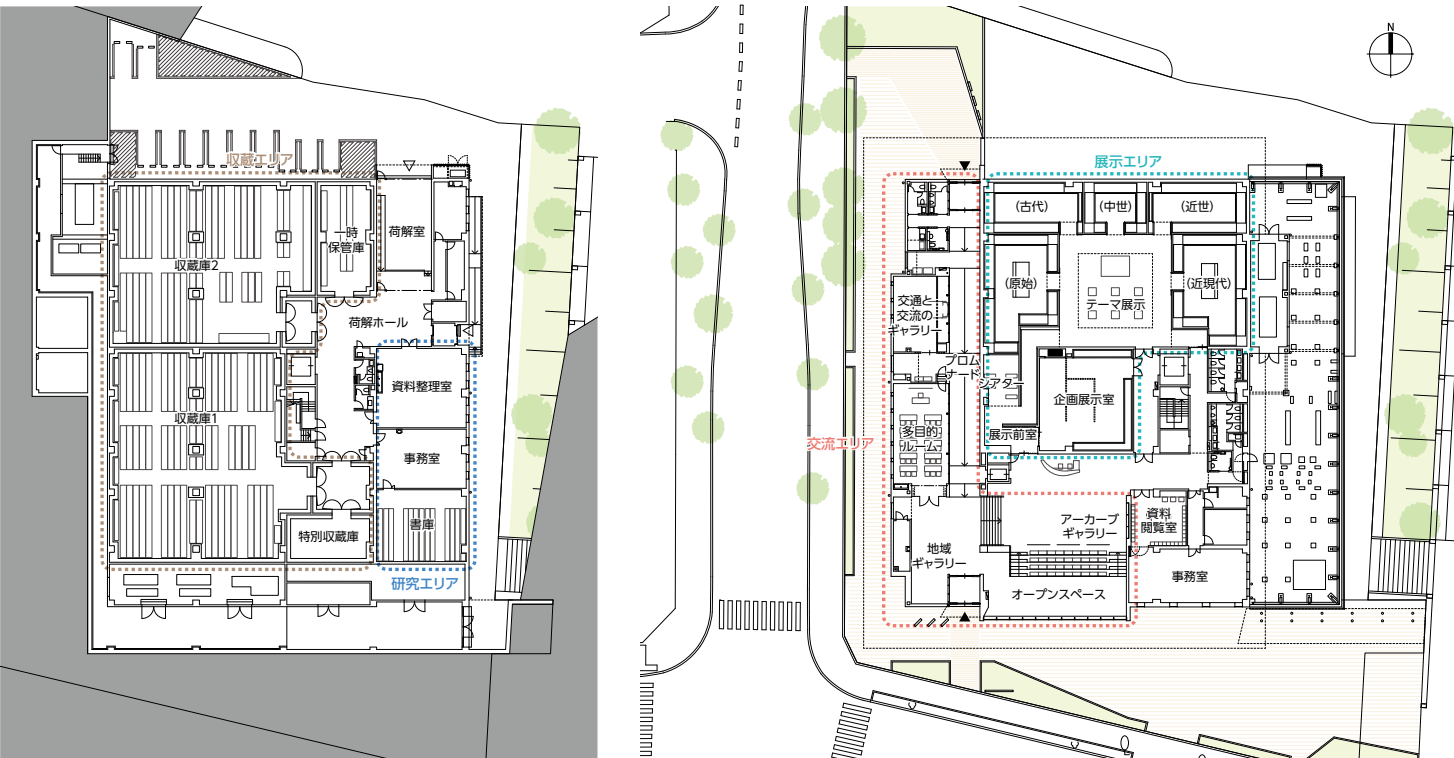
来館者自らが歴史を紐解き、辿りながら「交流」、「多様性」という郡山ならではの歴史的特質を再発見し、郷土の誇りとして共有できる展示施設となるだけでなく、まち歩きや観光の拠点となって観光振興・地域活性化につながる事が期待される。

（高木 洋／久米設計）



上／郡山公会堂と正対し、西側歩道の勾配に沿った軒庇のライン
左下／市営駐車場利用者の流れに沿った郡山公会堂前のプロムナード入口 右下／間接光によって浮かび上がる軒庇。歩道の明るさを確保

高木 洋……たかぎ よう
1970年東京生まれ。1992年明治大学工学部建築学科卒業、久米建築事務所（現・久米設計）入社。現在、同社設計本部東北支社部長



地下1階平面図 縮尺1/800

配置・1階平面図



地域ギャラリーや多目的のルームが顔を出すプロムナード



ギャラリートークや講演会などに利用できるオープンスペース。階段上は大型マルチビジョンが設置されたアーカイブギャラリー

「知のクロスポイント」となる新たな博物館

福島県の中央に位置する郡山市は、古くから交通の要衝として発展してきた。奥州街道などの街道が交差し、近代には安積開拓・安積疏水開さく事業が産業と人の往来を加速させた。人と物、情報が行き交う「クロスポイント」での交流史は、新たな産業や豊かな生活文化を育んできた。

本施設は、旧歴史資料館の移転リニューアルに加え、公文書館機能を融合した新たな博物館である。施設整備とあわせて、博物館資料や古写真等の博物館資料、歴史公文書をデジタル化し、保存と公開を兼ね備えたデジタルアーカイブを構築。これにより、貴重な資料データを後世へと受け継ぎながら、市民に親しみやすく公開し、活用することが可能となった。アーカイブギャラリーでは、「郡山コレクション」として2D・3Dのデジタル資料に気軽に触れられる。また、大型マルチビジョンでは、3D地形モデルに文化財・災害史・

日本遺産の情報がマッピングされ、立体的・複層的に郡山の歴史文化を理解することができる。

本施設の展示構成は「静謐でおごそかな展示エリア」と「動的で賑やかな交流エリア」に区別され、両者が回遊的につながっている。展示エリアでは、まずガイダンスシアターの「郡山ディスカバリー」映像で、地理的特徴を空から眺めながら、歴史との結びつきをガイドする。安積疏水の水の流れと悠久の時の流れを、映像・音響・照明で象徴的に演出するアプローチ通路を抜けると、テーマ展示空間へとつながる。「ものと文化」「道とまち」「こおりやまびと」という3つのテーマで郡山の交流の歴史を伝え、おごそかに歴史や資料と向き合う空間としている。

交流エリアでは、更新可能なグリッド状のシステムウォールにより、地域の歴史文化をテーマとした企画展を開催し、歴史文化観光の周遊へと誘う。また、交通と交流のギャラ

リーでは、郡山の鉄道史とまちの発達史をテーマに、子どもから大人まで楽しめるインタラクティブ展示を展開する。旧歴史資料館で親しまれた馬車鉄道の実大模型を移設し、当時の旅を再現するVR映像を組み合わせることで、レガシーを継承しつつ現代的な展示体験へと進化させている。

本施設は、博物館資料と歴史公文書、アナログ資料とデジタル資料を複合してみせることで、多層的でリアルな郡山の歴史を描き出そうとしている。地域の記憶に寄り添いながら未来を見据える、「知のクロスポイント」としての新たな博物館像を提示するものである。

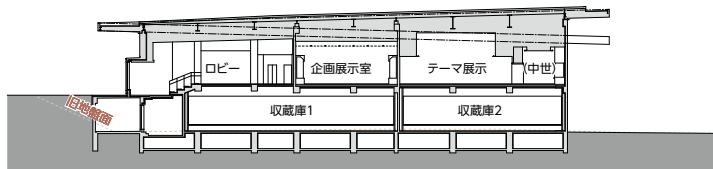
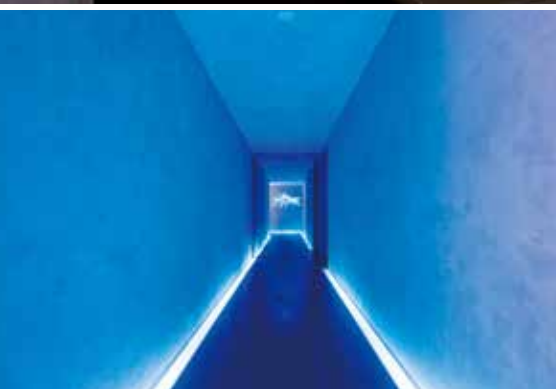
(宮澤俊太郎／トータルメディア開発研究所)



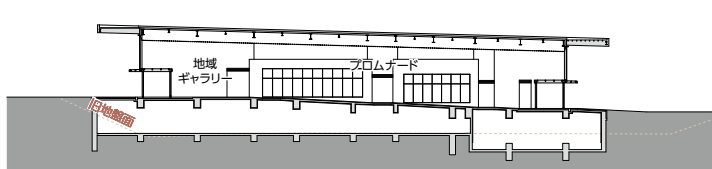
宮澤 俊太郎……みやざわ しゅんたろう
1989年長野生まれ。2014年千葉大学大学院工学研究科デザイン科学専攻修了、トータルメディア開発研究所入社



左上／ガイダンスシアター 左下／常設展示室へと向かうアプローチ通路 右／交流の歴史を伝える常設展示室中央のテーマ展示



断面図 縮尺1/800



施工計画

本計画は、郡山市の中央図書館、中央公民館等の文化施設が集まる麓山地区に博物館を建設するものである。

敷地は南北で3.8mの高低差があり、着手当初にアプローチできたのは北面のみであった。そのため躯体工事の開始に先立ち、南側からのアプローチを確保するため、杭工事にて発生する杭汚泥を場内に改良して再利用し、南・西面

の山留背面に先行して盛土を行うことにより早期に南面からのアプローチが可能となり、工事を円滑に進めることができた。

施工においてはBIMを活用したことで、南面で勾配の異なる屋根が結合する納まりの検討や、限られたスペースで計画されたダクト、配管等のルートを効率よく検討することができた。

建築工事・設備工事・展示工事がベクトルを合わせて、工程調整、施工調整を綿密に行ったことで

無事工事を完了することができた。

今後は、地域の方々のみならず、郡山市を訪れる人々にも親しまれ、足を運んでいただける施設となることを願う。

(黒崎裕光／佐藤工業)



黒崎 裕光……くろさき ひろみつ
1972年富山県生まれ。1995年福井大学環境設計工学科卒業、同年佐藤工業入社。現在、同社東北支店工事部長



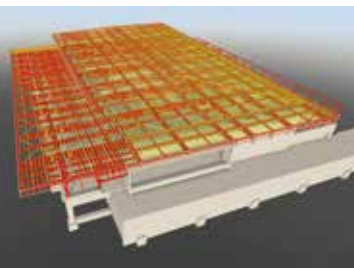
西側より施工状況を見る。南側（写真右）に盛土を行い、西・南面からのアプローチを可能とした



建方状況



建物完成時



BIMを活用して屋根の納まりを検討

郡山市歴史情報博物館 データ

所在地 福島県郡山市麓山1-5-30

主要用途 博物館

建築主 郡山市

設計・監理 久米設計

担当／総括：高木 洋 建築：三井玲一郎

構造：鈴木 守（元社員） 電気：今野安宏

機械：氏家 純、田中孝輔 監理：佐藤正考、花輪 功

施工

建築 佐藤工業・八光建設特定建設工事共同企業体

担当／黒崎裕光（所長）、大澤貴之（副所長）、石井聡彦（副所長）、木村昌平、谷川清英、小野寺竜大、伊藤 駆、根本祐希

電気 エディソン・北陽電設工業特定建設工事共同企業体

担当／野地洋昌、熊谷賢治

空調・衛生 太平・石田特定建設工事共同企業体

担当／大和田禎明、熊田幸夫

情報防災 大槻電気通信 担当／高橋裕之

展示設計 トータルメディア開発研究所

担当／宮澤俊太郎、宮崎 翔

展示製作 トータルメディア開発研究所

担当／宮澤俊太郎、宮崎 翔、高田剛彦

設計期間 2020年8月～2022年3月

工事期間 2022年12月～2024年10月

【建築概要】

敷地面積 4,006.89㎡

建築面積 2,588.66㎡

延床面積 3,534.72㎡

展示面積 常設展示室：503㎡ 企画展示室：110㎡

交通と交流のギャラリー：47㎡ 地域ギャラリー：36㎡

建ぺい率 64.61％（許容80％）

容積率 87.63％（許容200％）

構造規模 RC造、一部S造 地下1階、地上1階

最高高さ 13.29m

軒高 12.53m

階高 3.1m

天井高さ 5.4m

主なスパン 6.0m×9.25m

道路幅員 22m

駐車台数 11台

地域地区 近隣商業地域

【設備概要】

電気設備 受電方式／3φ3W 6.6KV 1回線受電 変圧器容量／900kVA 予備電源／ディーゼル式非常用発電機 3φ3W200V200kVA×1台

空調設備 空調方式／ユニット型空調機による床吹出空調、全熱交換器＋個別空調 熱源／空気熱源ヒートポンプチャ―、マルチパッケージ型空調機

衛生設備 給水／水道直結式 給湯／小型電気温水器、ガス瞬間湯沸かし器 排水／屋内分流方式

防災設備 消火／屋内消火栓設備、不活性ガス消火設備、連結散水栓設備 排煙／機械排煙設備、自然排煙方式 その他／自動火災報知設備、非常放送設備

昇降機 スクリュー式9人乗乗用、機械室レス30人乗人荷用

【主な外部仕上げ】

屋根 フッ素アルミ板平滑葺

軒天 福島県産杉板 木材保護塗装

外壁 コンクリート化粧打放しフッ素樹脂クリアー塗装、リン酸処理スチールパネル

建具 アルミサッシ、アルミ木複合サッシ

外構 磁器質タイル、アスファルトプリント舗装

【主な内部仕上げ】

常設展示室 床／タイルカーペット・磁器質タイル（輻射冷暖房用鋼製二重床下地） 壁・天井／石膏ボードEP

プロムナード 床／磁器質タイル 壁／コンクリート化粧打放しウレタンクリアー塗装、内装薄塗材E 天井／福島県産杉板

ロビー 床／フローリング 壁／福島県産杉横羽目板、石膏ボードEP 天井／石膏ボードEP

収蔵庫 床／ビニル床シート（裏面アルミ張不透湿処理合板、構造用防虫合板、鋼製二重床下地） 壁／無機質系調湿材（裏面アルミ張石膏ボード、鋼製二重壁下地） 天井／岩綿吸音版（裏面アルミ張石膏ボード下地）

撮影／川澄・小林研二写真事務所 船来洋志

協力会社

基本構想・基本計画・展示設計・展示製作	トータルメディア開発研究所
山 留 工 事	丸 藤 シ ー ト パ イ ル
杭 工 事	東 建 エ ン ジ ニ ア リ ン グ
鉄 骨 工 事	森 鉄 工
型 枠 工 事	田 村 工 務 店
屋 根 ・ 鋼 製 床 工 事	高 田 産 商
ガ ラ ス 工 事	石 井 建 硝
鋼 製 建 具 工 事	中 央 鋼 建
重 量 S S ・ S D	三 和 シ ャ ッ タ ー 工 業
収蔵庫扉・可動間仕切工事	オ カ ム ラ
トイレブース工事	小 松 ウ ォ ー ル 工 業